

第40回読売書法展

役員作品鑑賞ガイド

国内書壇の最高峰を形成する最高顧問、顧問、常任総務の作品ガイドを作成しました。作者自身による制作意図を紹介しておりますので、ご鑑賞の際の手引きとしてご利用いただければ幸いです。

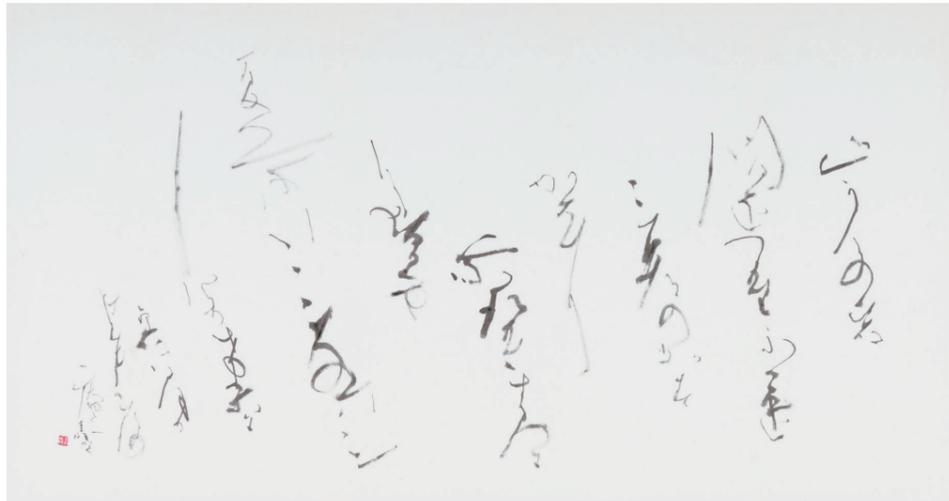
読売新聞社
読売書法会



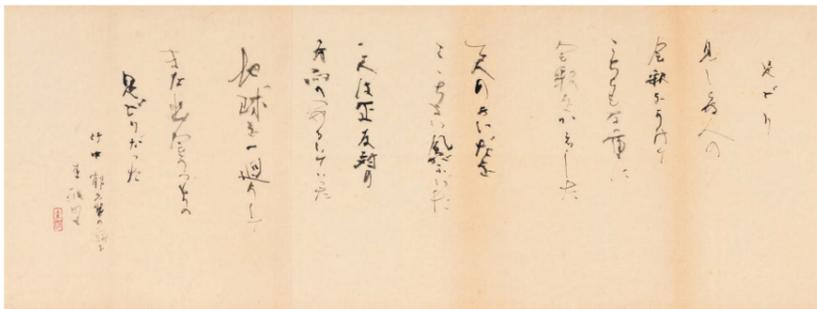
最高顧問
井茂

圭洞

上..良寛の歌(良寛『良寛全集』)
下..足どり(竹中郁『竹中郁詩集』)



書は時間芸術かつ平面芸術の
思いと、書線は心臓の鼓動の
軌跡で呼吸の形象化との思い
の接点を求め制作いたしてお
ります。この二点もこれらの
思いを込めましたが道半ばの
作です。ご意見をいただけま
したら幸甚に存じます。



最高顧問

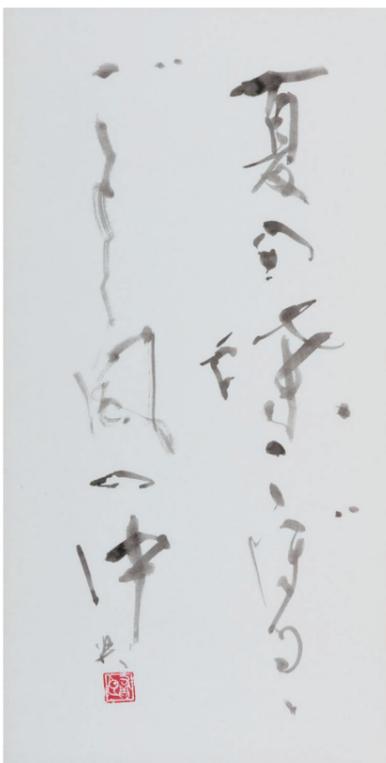
黒田 賢一



上：清き月(大伴家持『万葉集』)
下：夏の蝶(原石鼎)



満天に輝く美しい月。スケールの
大きな作と願い、特に中央部に大
字を配した。騒がしくならぬよう
白の処理を工夫した。



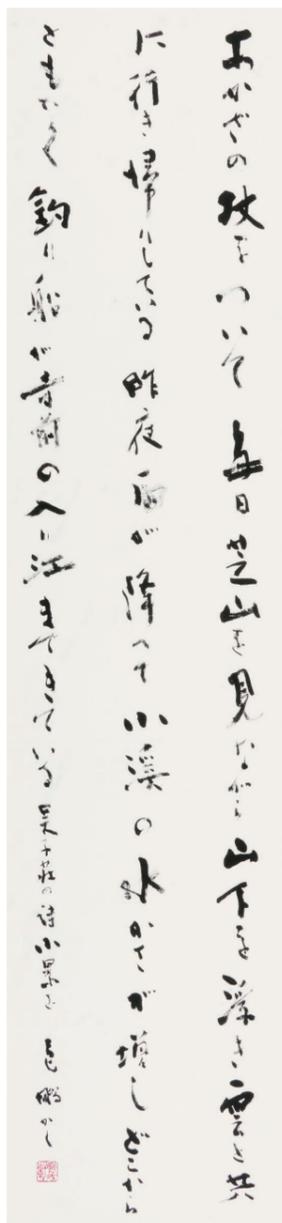
初夏に蝶が舞うのどかな風景を
淡墨で表現した。蝶と風、複雑
な文字をあえて対比させてポイ
ントとした。

最高顧問

尾崎 邑鵬



右：明德惟馨(君陣『書經』)
左：小景(呉子荘)



書經にある言葉を六朝造像風に書いてみた。
幼稚な筆使いだが、そこがねらいでもある。
墨を盛って重厚感を加えたつもりである。



読める字——文、日本人の句を書きたいと
思っていたが、中国人の文となった。筋
だけを通すようにしている。



最高顧問

高木 聖雨

上.. 魁偉 (『漢書』郭泰伝)
下.. 老子の語 (老子)



書の極、白をいかに表現出来るかをテーマにして制作している。また、古典と表現をいかにマッチさせるか。難解!



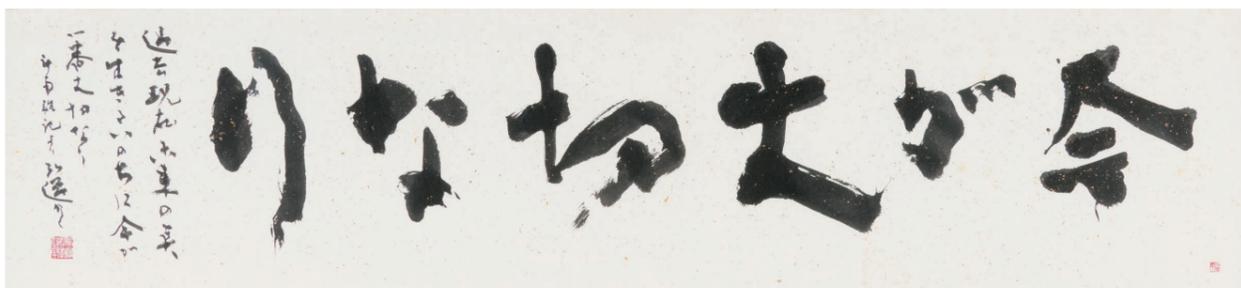
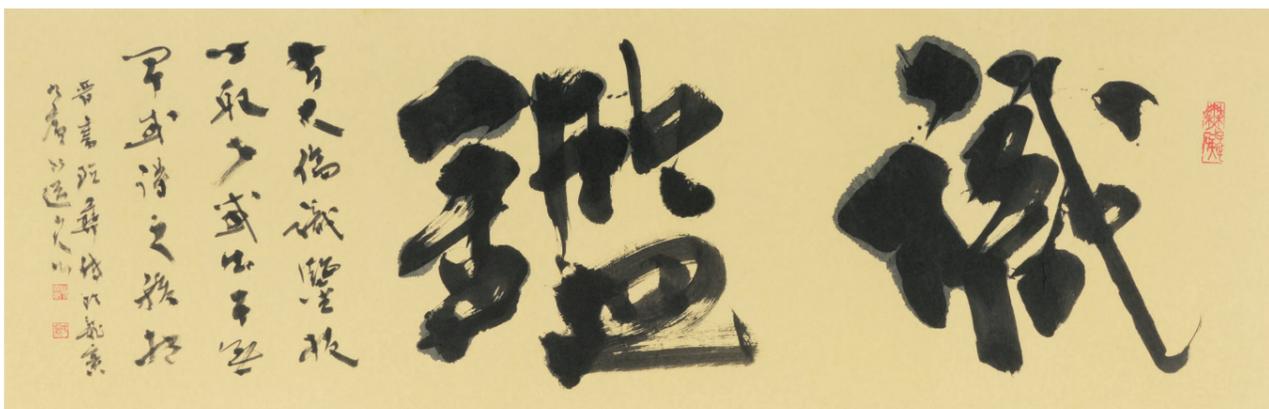
楚系 (春秋戦国期の楚国系統) の篆書、はたして読める書として成立するのか。また、ひらかなと調和するのか、試行錯誤した実験作品。



最高顧問

星 弘道

上.. 識鑑 (『晋書』桓彝伝)
下.. 今が大切なり (自詠)



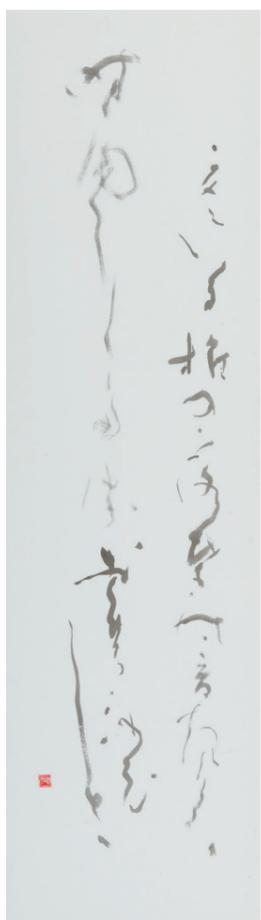
年を重ねてくると時間のたつのが早くなり、あっと言う間に月日が過ぎてしまふ。つくづく刹那の大切さを思い、書いてみた。



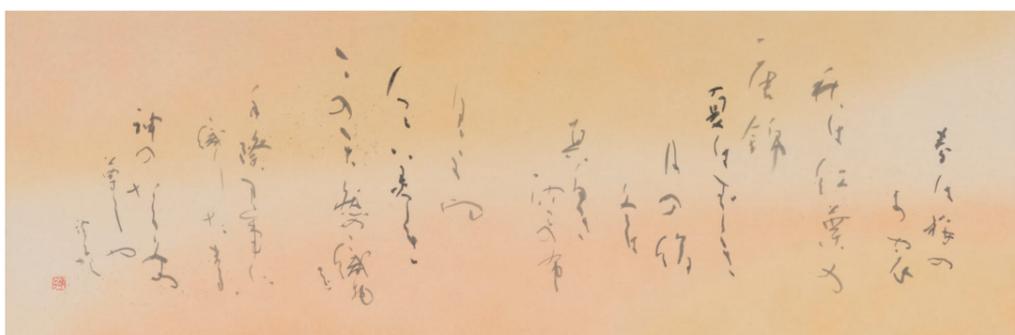
最高顧問

土橋 靖子

右.. 椎の落葉 (斎藤茂吉『斎藤茂吉歌集』)
左.. 美しき天然 (武島羽衣)



紙面を掌に込める思いで、さらに情感と線の充実を共に願いながら、筆を持ちました。

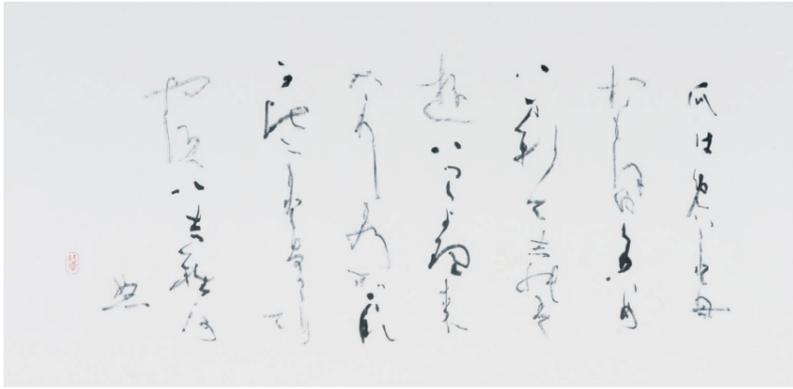


美しい日本語のもつ世界観・間・和やかさが書で表現できないかと思ひ、心を平らかに、と念じつつ書きました。

顧問 池田 桂鳳

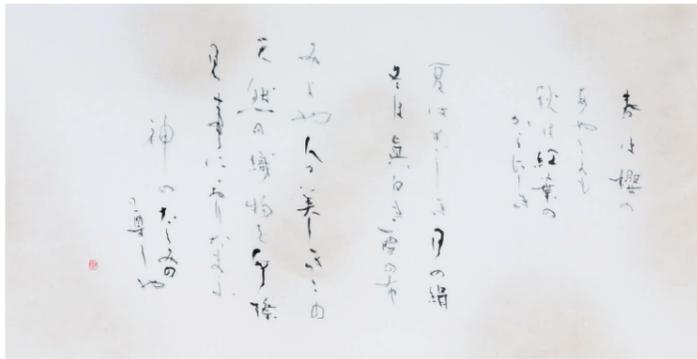


上：子等を思ふ歌 (山上憶良『万葉集』)
下：美しき天然 (武島羽衣)



近くの保育園の子等が
仲良く公園までお散歩
に。初心を忘れないよ
う心しています。

楽しく書いて、見て面白
みあふれる作品ができ
ばとの思いを常々抱いて
います。



顧問 新井 光風



上：秉彝 (『詩経』大雅)
下：老子語 (『老子』養徳)



表現の未知なる
可能性を求め、
新しい扉を切り
拓くことへの挑
戦がつづく。金
文二字は新鮮な
世界の定着を試
みた。

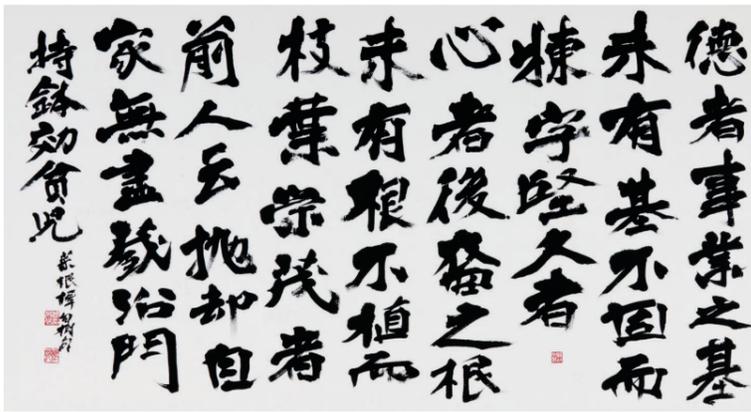
自然な空気感と格調
を意識して書いた。
書体は異なるも常に
思うことは線の命と
存在感。そして命の
躍動。



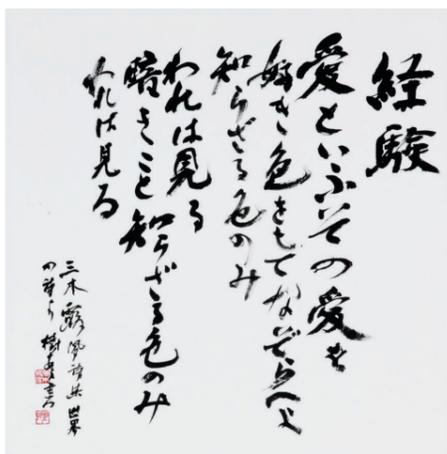
顧問 樽本 樹邨



上：菜根譚より (『菜根譚』)
下：経験 (三木露風『三木露風詩集』)



「菜根譚」の一節を書き
たくて、題材とした。「菜
根譚」の処世訓を心に留
め、真つ直ぐな心で書い
た。



軽やかに、爽やかに書いた。

顧問 杭迫 柏樹



右：水天一碧 (董廷珪『衛源游覧記』)
左：打てば快音、切れば鮮血 (自詠)

水天一碧——私の心に描く
美の極致。造形的条件より
も、言葉の意味(思想)を
優先してしまう最近の私。



書は線の芸術という。生き
た線とは……「打てば快音
を発し、切れば鮮血のほと
ばしる書。」今の私の書美
の理想。



常任総務 牛窪 梧十



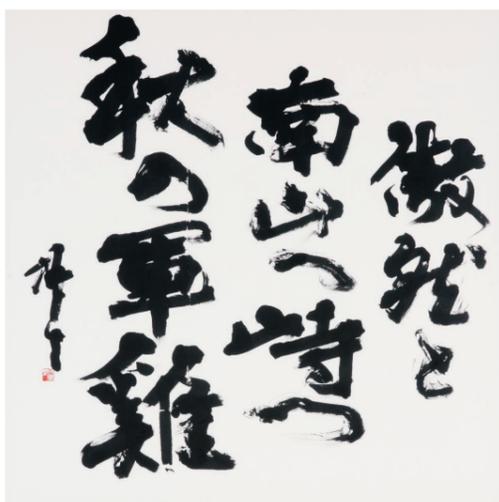
上：渡辺崋山詩・幽居（渡辺崋山『日本文人詩選』）

下：秋圃軍鶏図賛（自詠）

蚕社の獄による蟄居中の詩から二句。この句に出逢ってから、文人画粹編や森銑三著作集まで読み直した。



松林桂月描く秋圃軍鶏図を入手し損ねた悔しさから、題画句として詠んでみた。陶淵明へのオマージュでもある。



顧問 真神 巍堂



上：風塵（張桐城）

下：曼珠沙華（岡本かの子）



遅筆を心掛け、文字中の白を大切にしておおらかな作品を求めた。

曼珠沙華の笑の花を見つめて息を漸らしてわが居たつのも秋まかく

古い半切に淡墨を使って自然体で書いた。いずれの書体にあつても奇をてらうことは避けた。

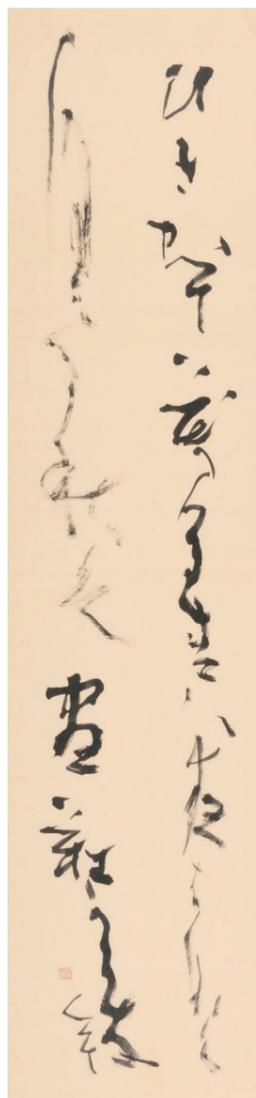
常任総務 高木 厚人



右：はなとつき（西行『山家集』）

左：花と月（西行『山家集』）

西行歌一文字目の起筆から結びの収筆まで、時間の経過と共に場面を変え、力強い宇宙を創りたいと筆を進めました。



漢字の構え、かな文字の姿大きさ等を工夫し、和歌の内容が心地よく伝わるよう念じて筆を運びました。



第40回読売書法展（2024年） 会期・会場

〔東京展〕

〔第1会場〕 8月23日（金）～9月1日（日）※27日（火）休館
国立新美術館

〔第2会場〕 8月23日（金）～29日（木）
東京都美術館

〔関西展〕 9月11日（水）～15日（日）

〔第1会場〕 京都市京セラ美術館

〔第2会場〕 京都市勧業館「みやこめっせ」

〔中部展〕

〔第1会場〕 9月18日（水）～23日（月・休）
愛知県美術館ギャラリー

〔第2会場〕 9月19日（木）～23日（月・休）
ウインクあいち

〔中国展〕 9月27日（金）～29日（日）

〔会場〕 広島県立ふくやま産業交流館「ビッグ・ローズ」

〔四国展〕 10月12日（土）～14日（月・祝）

〔会場〕 サンメッセ香川

〔東北展〕 10月23日（水）～27日（日）

〔第1会場〕 山形美術館

〔第2会場〕 山形県芸文美術館

〔北海道展〕 11月6日（水）～10日（日）

〔会場〕 札幌市民ギャラリー

〔九州展〕 12月6日（金）～8日（日）

〔会場〕 福岡国際センター

※今後の話事情により日程の変更や中止になることがあります。
読売書法会公式サイト（<https://yomiuri-shohokai.com>）等で最新の情報を確認ください。

©2024 読売新聞社 読売書法会

本ガイドの制作にあたりましては、

日本文藝家協会（許諾番号S20240703Y）

の許諾を得ています。
著作権に関しては手続きを取っておりますが、
お気づきの点があれば読売書法会事務局までお知らせください。